

岩手競馬開催実績等について

平成 20 年 11 月 25 日

財 政 部

資料 1 岩手競馬開催実績等について（第 9 回水沢競馬前半まで：～11/17）

資料 2 岩手競馬の民間委託拡大に関する検討結果について

岩手競馬開催実績等について(第9回水沢競馬前半まで:~11/17)

1 発売額の計画達成状況

- 岩手競馬発売額の計画達成率は 101.1% 広域受託発売額は 90.8%
- 6月末に見直した発売計画とほぼ一致している。

(単位: 百万円、%)

区分	岩手競馬発売額 (H20. 4. 5~11. 17)				広域受託 発売額
	自場発売	広域委託発売	インター ネット発売	計	
計画額 (a)	11,699	4,004	1,224	16,927	5,640
実績額 (b)	11,726	3,961	1,425	17,112	5,121
差額 (b-a)	27	△ 43	201	185	△ 519
達成率	100.2	98.9	116.4	101.1	90.8

2 発売額・入場者数の前年度比較

- 発売額は 17,112 百万円 (前年度比 91.1%)
- 入場者数は 1,231,829 人 (前年度比 94.2%)

(単位: 百万円、%、人)

区 分		発 売 額			入 場 者 数		
		平成20年度	平成19年度	前年度比	平成20年度	平成19年度	前年度比
自 場 発 売	水沢競馬場	3,154	3,538	89.1	247,390	269,993	91.6
	盛岡競馬場	2,529	3,032	83.4	272,732	286,674	95.1
	宮古場外	281	324	86.7	21,807	23,103	94.4
	釜石場外	546	681	80.2	32,917	42,232	77.9
	種市場外	683	791	86.4	89,076	73,932	120.5
	安代場外	424	456	93.0	21,772	22,192	98.1
	大通場外	223	197	113.4	-	-	-
	電話投票	138	147	93.7	-	-	-
	県内施設・計 (a)	7,978	9,166	87.0	685,694	718,126	95.5
	横手場外	1,091	1,196	91.2	263,878	288,581	91.4
発 売	山本場外	407	447	91.1	62,695	65,256	96.1
	三本木場外	1,445	1,722	83.9	138,823	150,506	92.2
	十和田場外	468	536	87.3	80,739	85,542	94.4
	つがる場外	147	181	81.4	-	-	-
	福島場外	86	137	62.4	-	-	-
	東京場外	104	127	82.2	-	-	-
	県外施設・計 (b)	3,748	4,346	86.2	546,135	589,885	92.6
	計 (a+b)	11,726	13,512	86.8	1,231,829	1,308,011	94.2
広域委託発売		3,961	4,265	92.9	-	-	-
インターネット発売		1,425	1,010	141.1	-	-	-
合 計		17,112	18,787	91.1	1,231,829	1,308,011	94.2

3 今後の対応

さらなる売上拡大に取り組み、収支均衡の達成を確実なものとしていく。

岩手競馬の民間委託拡大に関する検討結果について

1 検討結果

本年5月28日、民間委託拡大の検討に関し、日本ユニシスと具体的な交渉に入ることを決定して以来、日本ユニシスとは、企画提案が具体的に実現可能であり、現行方式よりも良いことが明らかになり、市民・県民や議会の皆様に納得いただけるかどうかなどの観点から協議を重ねてきた。

本年3月末に日本ユニシスから提出されていた当初の企画提案や、協議の過程において確認できた情報をもとに、馬主や厩舎関係者からも意見を伺いながら、日本ユニシスの提案と現行方式との比較考量を行い、最終的に判断した結果、21年度からの民間委託拡大は実施しないとの結論に至った。

2 日本ユニシスとの協議

(1) 日本ユニシスに対して、競馬事業の基本事項であり、馬主や厩舎関係者にも明らかにして協議することが必要不可欠な情報として特に次の3点について、公開できる情報としての提示を求めている。

- ① 年間レース数、開催日程、重賞・特別競走の配分などの競走体系
- ② レース区分ごとの賞金水準、各種手当の水準など賞典費の内容
- ③ 初年度の基本的な収支見通し(収支計画)

(2) 上記の3点について、10月14日に日本ユニシスから提示された内容には、③について示されなかったほか、年間レース数、重賞・特別競走の配分や賞典費の総額なども示されなかった。そして、先方からは「公開できる情報は、現時点では今回提示した内容のみ」との説明があった。

(3) 競馬組合としては、10月の最終判断に向けて、これまでに確認できた情報に基づいて、現行方式との比較考量を行うこととした。

3 現行方式との比較考量

本年3月に提出された企画提案及び10月14日に文書で示された内容をもとに、現行方式との比較考量を行った結果は次のとおりである。

(1) 日本ユニシスから示された内容は、当初の企画提案と比較して、開催日程やレース数など事業運営の基本である競走体系を大幅に見直す内容となっているが、重賞・特別競走の配分などレース計画が不明であるほか、収支計画が示されておらず、売上の水準や賞典費の総額など、事業運営の具体的な見通しが明らかになっていないもので、事業継続の見通しが立たない。

また、示されているレース数や出走手当の水準では、馬資源の確保が困難と見込まれる。

- (2) 現行方式と比較して開催日数が約3割、レース数が約4割減少することから、必要出走頭数が大幅に少なくなり、馬資源が減少し、賞金・手当総額の減少も想定され、厩舎関係者の大幅な減員が見込まれることから、雇用や地域経済に大きな影響が及ぶ可能性がある。
- (3) 競馬関係者から意見を聴取した結果、次のような意見があったこと。
 - ① 提案があった開催日程やレース数では、馬資源の大幅な減少が見込まれ、それに伴う厩舎関係者の雇用の確保が懸念される。
 - ② 提案の1着賞金では、優良馬の流入が容易とは考えられない。
 - ③ 提案の出走手当では、大幅な馬資源の流出が見込まれ、21年度以降の馬資源の確保が懸念される。

以上のことから、日本ユニシスの提案内容が「現行運営方式と比べてより良い」との判断には至らなかった。

4 今後の対応

- (1) 21年度においては、現行方式による事業運営を継続することになるが、来年度は、さらに厳しい経営環境になると見込まれることから、そのような厳しい状況を、競馬関係者や取引先企業と十分に認識を共有しながら、関係者の協力のもと、岩手競馬のイメージ向上に努めるとともに、収入面では他の主催者との連携の一層の強化による広域受委託発売の拡大など、あらゆる方策を講じ、支出面では、関係者の理解と協力を得て、経費の見直しや業務の効率化を徹底することで、収支均衡が実現できる収支計画を策定し、それを確実に実行するよう、関係者一丸となって、競馬事業の継続に全力で取り組むこととしている。
- (2) また、21年度は民間委託拡大を実施しないことになるが、岩手競馬の将来にとって、どのような事業運営が望ましいのか、中長期的な視点に立った抜本的な改革の検討が必要と考えているところであり、そのためにもまずは現行の運営方式のもとでの改革改善を進め、岩手競馬の経営の安定化を図ることとしている。

日本ユニシス㈱の企画提案と現行の運営方式との比較

比較項目	日本ユニシス㈱の当初企画提案 (平成20年3月31日提示)	日本ユニシス㈱の今回提案 (平成20年10月14日提示)	現行の運営方式による場合	日本ユニシス㈱の今回提案に対する 馬主、厩舎関係団体の意見	日本ユニシス㈱の今回提案に対する 競馬組合の検討結果
1 競走体系 (21年度) ○年間レース数 ○開催日程 ○重賞・特別競走の配分	(1)年間レース等 ・132日開催(※注 1開催6日) ・水沢は土日開催、盛岡は平日開催 とすることも検討 ・選抜レースの増加 ・第1、第2レース及びメインレ ース前レースにおける少頭数立レ ースの配置	競走計画の基本を優勝劣敗と変える ことにより、岩手競馬の競走の質を高 めることを目的とし、魅力あるレース 編成を実現することで競馬ファンを呼 び戻す。そのために以下のように競走 計画を大幅に改正する。 (1)年間開催数 現行と同じ22開催 (2)開催日程 ・1開催4日間(日・月開催) (※注 22開催×4日=88日) (3)レース編成 ・1日最低9レース ・1開催最低36レース (※注 4日×9レース×22開催=792レース) (4)格付区分 A・B・Cの3クラス	20年度を基本とし、21年度につい ては、現在検討中。 (1)年間開催数 年間22開催 (2)開催日程 1開催6日(土・日・月開催) (年間概ね130日開催) (3)レース編成 1日10~11レース ・1開催概ね66レース ・年間概ね1,400レース [グレード3レース、重賞概ね20レース、 特別概ね100レース、一般概ね1,270レース] (4)格付区分 A・B1・B2・C1・C2の 5クラス	・開催日数やレース数の減により、 馬資源の大幅な減少(約200頭~300 頭)が見込まれる。 ・厩舎関係者(調教師、騎手、厩務 員)の失業(1/3程度)及び就労環境 の悪化等が懸念される。 ・平成19年3月の県議会における330 億円融資に関連した存廃議論の中 で、競馬事業存続の意義とされた「雇 用対策」「失業対策」「経済効果」等 に逆行する提案内容である。	・計画レース数による年間発売額に ついて、どの程度見込むのかが不明。 ・開催日数やレース数の減少(日数: 現行の約30%減、レース数:現行の 約40%減)による厩舎の人員等の規 模縮小が想定。 ・「土曜日開催」を実施しないとい う提案については、現状の土曜日の 発売状況では、一定の収益性がある 状況になっており「土曜日開催」を しない場合、収益性の低下を招く。 ・「優勝劣敗」の基本的な考え方は 評価するが、今回の提案内容には不 明な点が多く、減量経営による地域 経済や雇用確保に影響を及ぼす可 能性が大きい。

【参考1】年度別開催日数 (単位:日)

区分	17年度	18年度	19年度	20年度 (予定)
日数	133	132	127	131

【参考2】年度別レース数 (単位:レース)

区分	17年度	18年度	19年度	20年度 (予定)
年間	1,446	1,442	1,354	1,400
1日当たり	10.9	10.9	10.7	10~11

【参考3】馬資源数 (単位:頭)

区分	18年10月	19年10月	20年10月
在厩頭数	863	831	781

(注) 各年とも通算第16回時点での頭数

※注 日本ユニシス㈱提案に基づく馬資源の見込み(単純試算)

- 開催日数による試算
 提案88日/現行131日×781頭=525頭(△256頭、△33%)
- 開催レース数による試算
 提案792レース/現行1,400レース×781頭=442頭(△339頭、△43%)
- 1開催当たり最低必要頭数による試算
 現行:1R10頭×11R×6日=660頭
 提案:1R10頭×9R×4日=360頭(△300頭、△45%)

【参考4】厩舎関係者数 (単位:人)

区分	18年3月現在 (新計画)	20年4月現在
調教師	41	43
騎手	31	26
厩務員、関係団体職員	218	187
合計	290	256
(馬主)	695	493

【参考5】岩手競馬1日当たり曜日別収益モデル (単位:百万円)

区分	土曜日	日曜日	月曜日
発売収入(A)	133	168	191
売上原価(B)	105	133	158
総利益(A)-(B)=(C)	27	36	33
開催経費(変動費)(D)	22	22	22
1日当たり岩手競馬の固定費 差引前利益(限界利益) (C)-(D)	6	14	11

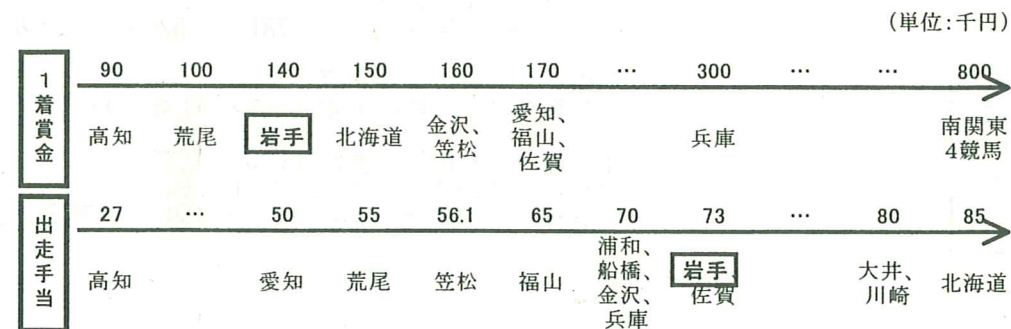
(注) 端数調整により計数が一致しない場合があること。

比較項目	日本ユニシス㈱の当初企画提案 (平成20年3月31日提示)	日本ユニシス㈱の今回提案 (平成20年10月14日提示)	現行の運営方式による場合	日本ユニシス㈱の今回提案に対する 馬主、厩舎関係団体の意見	日本ユニシス㈱の今回提案に対する 競馬組合の検討結果
2 賞典費 (21年度) ○レース区分毎の賞金水準 ○各種手当の水準	・ クラスや成績による出走手当の見直し	優勝劣敗を基本とした賞典費とするが、1着最低賞金を現在よりも大幅に引き上げる。さらに賞金比率を現在よりも高い200方式とする。このことで優良馬が岩手に集まるように賞典費を大幅に改正する。 (1)賞金配分比率 200方式 (入着賞金合計を200とし配分 1着:100、2着:50、3着:30、 4着:20) (2)馬主賞金支給対象 1着~4着 (3)出走手当 一律5万円 (4)1着賞金 ①JRA・地方交流 原則現行を基本 ②重賞 500万円~1,000万円 ③特別 100万円~150万円 ④Aクラス 80万円 ⑤Bクラス 55万円 ⑥Cクラス 35万円	20年度を基本とし、21年度については、現在検討中。 (1)賞金配分比率(グレード競走を除く) 150方式 (入着賞金合計を150とし配分 1着:100、2着:23、3着: 13、4着:9、5着:5) (2)馬主賞金支給対象 1着~5着 (3)出走手当 1出走7.3万円、2出走5.3万円 (4)1着賞金 ①重賞(グレード競走) 3,000万円~5,000万円 ②重賞 250万円~500万円 ③特別 20万円~250万円 (一般) ④Aクラス 65万円 ⑤B1クラス 35万円 ⑥B2クラス 25万円 ⑦C1クラス 20万円 ⑧C2クラス 14万円	【賞金】 ・ 提案された1枚のペーパーだけでは、全体的に不明な点(賞典費総額、重賞・特別等のレース数、馬主賞金以外の賞金・各種手当等)が多く、判断できない。 ・ 提案されたクラス毎の1着賞金では、全国の地方競馬の賞金水準からみて、優良馬の流入が、容易に見込まれるとは考えられない。 ・ 賞金ごとのレース数が示されず、馬主からすれば不安である。 ・ 強い馬を持っている馬主は、南関東でも勝てる。この賞金を示しても馬を持ってこない。 【出走手当】 ・ 一律5万円では、現行の預託料との関係から、大幅な馬資源の流出が見込まれ、21年度以降の馬資源の確保が懸念される。 ※出走手当は預託料と同額が基本 (現行)・預託料147千円/月 ・出走手当73千円×2回=146千円 ・ 利益を考えたら馬を置かない。5万円では成り立たない。 ・ この日本ユニシス㈱提案が20年度内に決定された場合、その時点から馬資源の流出が想定される。	・ 優勝劣敗を基本とする賞金費体系に見直すとの考え方については、一定の評価ができる。 ・ 今回提案の出走手当では、全国最下位クラスとなり、馬資源の確保が困難と想定。 ・ レース数減の影響も含めて、馬資源の大幅な減少につながり、競馬開催自体ができなくなる恐れがある。

【参考1】各主催者の一般競走の賞典費の状況(平成20年度)(単位:千円)

区分	標準的な1着賞金の額		標準的な出走手当の額	
	(最高)	(最低)		
岩手	650	~ 140	1走: 73 2走: 53	
北海道	900	~ 150	1走: 85~20 2走: 50~10	
南関東地区	浦和	3,600	~ 800	70
	船橋	4,300	~ 800	70
	大井	5,400	~ 800	80
	川崎	4,500	~ 800	80
金沢東海	金沢	1,000	~ 160	1走: 70 2走: 40
	笠松	1,000	~ 160	着内: 47.8 着外: 56.1
	愛知	1,500	~ 170	50
兵庫	1,400	~ 300	70	
福山	500	~ 170	1走: 65 2走: 50	
高知	150	~ 90	27	
九州	佐賀	440	~ 170	1走: 73 2走: 100
	荒尾	400	~ 100	55

【参考2】最低1着賞金と出走手当の相関(イメージ)



【参考3】出走手当と預託料との関係

・1ヶ月に2回出走した場合 100,000円(提案5万円×2回)
 ・現在の預託料(1ヶ月) 147,000円
 差額 △47,000円

注 県庁農林水産部競馬改革推進室調べ。

比較項目	日本ユニシス㈱の当初企画提案 (平成 20 年 3 月 31 日提示)	日本ユニシス㈱の今回提案 (平成 20 年 10 月 14 日提示)	現行の運営方式による場合	日本ユニシス㈱の今回提案に対する 馬主、厩舎関係団体の意見	日本ユニシス㈱の今回提案に対する 競馬組合の検討結果																																																
3 初年度の基本的な収支見 通し(21年度収支計画)	(単位：百万円)		(単位：百万円)		<ul style="list-style-type: none"> 具体的な収支計画が示されず、売上の水準や日本ユニシス㈱に支払うべき委託料の規模など、具体的な事業運営ができる見通しがたない。 																																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内訳</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業収入(a)</td> <td></td> <td>20,000</td> </tr> <tr> <td>支出(b)</td> <td></td> <td>20,000</td> </tr> <tr> <td></td> <td>売上原価</td> <td>14,429</td> </tr> <tr> <td></td> <td>賞典費</td> <td>1,468</td> </tr> <tr> <td></td> <td>直営経費</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td></td> <td>委託料</td> <td>3,936</td> </tr> <tr> <td></td> <td>利子</td> <td>99</td> </tr> <tr> <td>収益保証額 (a)-(b)</td> <td></td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	内訳	金額		事業収入(a)		20,000	支出(b)		20,000		売上原価	14,429		賞典費	1,468		直営経費	68		委託料	3,936		利子	99	収益保証額 (a)-(b)		0	<p>身の丈にあった経営基盤を構築し、徹底した減量経営を実現する。そのために、業務の効率化・合理化と適正コスト化を推進する。</p> <p>そのためには、現在随意契約をしている主要企業との価格交渉を競馬組合と弊社が共同で行うことにより、一層のコスト圧縮が図られ収支均衡が早い段階で実現される。</p> <p>(具体的な収支計画については、提案なし)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内訳</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入(a)</td> <td></td> <td>23,785</td> </tr> <tr> <td>支出(b)</td> <td></td> <td>23,755</td> </tr> <tr> <td></td> <td>売上原価</td> <td>17,760</td> </tr> <tr> <td></td> <td>賞典費</td> <td>2,037</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事業運営費</td> <td>3,858</td> </tr> <tr> <td></td> <td>利子</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>経常損益 (a)-(b)</td> <td></td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1)20年度第1期見直し後の発売額と同様の売上を仮定した見込 (注2)収入には、20年度と異なり、公営公庫還付金及び南関東協力金の嵩上げ分は含まれていない。 (対前年度△263) (注3)支出は、新計画の経営指標に基づく事業費配分による試算額</p>	項目	内訳	金額	収入(a)		23,785	支出(b)		23,755		売上原価	17,760		賞典費	2,037		事業運営費	3,858		利子	100	経常損益 (a)-(b)
項目	内訳	金額																																																			
事業収入(a)		20,000																																																			
支出(b)		20,000																																																			
	売上原価	14,429																																																			
	賞典費	1,468																																																			
	直営経費	68																																																			
	委託料	3,936																																																			
	利子	99																																																			
収益保証額 (a)-(b)		0																																																			
項目	内訳	金額																																																			
収入(a)		23,785																																																			
支出(b)		23,755																																																			
	売上原価	17,760																																																			
	賞典費	2,037																																																			
	事業運営費	3,858																																																			
	利子	100																																																			
経常損益 (a)-(b)		30																																																			

【参考1】年度別収支(見込)

(単位：百万円)

項目		17年度決算	18年度決算	19年度決算	20年度見込 (第1期見直し後)	現時点の 21年度見込
発売額	自場発売	22,965	20,526	17,236	15,406	15,406
	広域委託発売	6,675	6,934	4,814	4,845	4,845
	インターネット発売		901	1,258	1,616	1,616
	計(A)	29,640	28,361	23,308	21,867	21,867
その他 収入	広域受託協力金	778	846	1,493	1,518	1,453
	その他	1,057	917	861	663	465
	計(B)	1,835	1,763	2,354	2,181	1,918
収入合計(C)=(A)+(B)		31,475	30,124	25,662	24,048	23,785
売上原価(D)		23,923	23,131	18,985	17,760	17,760
売上総利益(E)=(C)-(D)		7,552	6,993	6,677	6,288	6,025
販売費 及び管 理費	賞典費	3,224	3,315	2,228	2,128	2,037
	事業運営費	5,483	5,283	4,275	4,030	3,858
	計(F)	8,707	8,598	6,503	6,158	5,895
営業損益(G)=(E)-(F)		△1,154	△1,605	174	130	130
営業外費用(H)		667	613	125	100	100
経常損益(I)=(G)-(H)		△1,821	△2,218	49	30	30
特別利益(J)		1,593	322			
特別損失(K)		85	157			
当期純利益(I)+(J)-(K)		△314	△2,053	49	30	30

(注1)20年度第1期見直し後の発売額と同様の売上を仮定した見込
(注2)支出は、新計画の経営指標に基づく事業費配分による試算額
(注3)端数調整により計数が一致しない場合があること。

【参考2】日本ユニシス㈱提案の場合における1日当たり及び1レース当たりの必要となる発売額の増加率
(想定に基づく試算)

(単位：百万円)

区分	日本ユニシス㈱の 提案による試算(※)			現行の運営方式			必要となる 発売額の増加率
	年間発売 見込額	開催	発売 見込額	年間発売 見込額	開催	発売 見込額	
1日当たり	18,000	日 88	205	21,867	日 131	167	現行より約20%の増
1レース当たり	18,000	レース 792	23	21,867	レース 1,400	16	現行より約40%の増

(※注)日本ユニシス㈱提案による試算の年間発売見込額180億円は、当初企画提案の総収入200億円から、その他収入(広域受託協力金等)を概ね20億円と見込み、差し引いた試算額